

教員名	粕川 正充 (KASUKAWA Masaatsu)
所 属	理学部情報科学科情報処理講座
学 位	1993年7月東京工業大学博士(理学)取得
職 名	助教授
URL / E-mail	http://www.is.ocha.ac.jp/~kasukawa/ / kasukawa@is.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ユーザインタフェース / 手書き文字インタフェース / ステガノグラフィ / USB デバイス開発

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・査読付き論文:Masaatsu Kasukawa,Atsuo Ohki,Yasushi Kuno,Hiroyasu Kakuda,
"Icon Throwing" User Interface in Tablet PC,Natural Science Report,
Ochanomizu University, Vol 57,No.2(2006)
- ・ポスター発表:粕川 正充,「手書きメール送受信プログラムの開発」 第48回プログラミングシンポジウム

◆研究内容

人間を中心としたコンピュータと人間の共棲を目指す。現在のコンピュータのありかたは酷くいびつである。コンピュータをありうるべき姿で捉えなおし、人間にとって自然なパートナーであるように研究をしている。また、暗号や乱数、アーキテクチャなどについても研究を行っている。

◆教育内容

学部講義としてコンピュータアーキテクチャⅠ、情報倫理、基礎ゼミなどを担当した。コンピュータアーキテクチャⅠはコンピュータのハードウェア面を主として、後期のコンピュータアーキテクチャⅡの内容のオペレーティングシステムへの橋渡しを行った。来年度は通年でコンピュータアーキテクチャⅠ及びコンピュータアーキテクチャⅡを担当する予定である。情報倫理はコンピュータセキュリティを管理者の立場で学ばせた。異常事態はなぜ発生するのか、また対策はどのように行うのか、再発防止はどうすればよいのか、また各段階で発生するコストはどの程度になるのかななどを講義し、レポートを課した。基礎ゼミは他学科1年生向けの情報科学科ではどのような内容を学ぶのかを紹介する講義であり、授業時間の最初の30分は情報関係の様々なトピックを解説し、残り1時間で電子回路の市販キットやPIC-BASIC基板の組み立てやプログラムの作成を行い、最後にレポートを課した。

◆Research Pursuits

Toward the Symbiosis of man and Computer, I study the interfaces between human and computer.
The development of computers stepped into
the crooked way.
I hope to justify the way to the right one.

◆共同研究例

「アイコンを投げる」研究:角田博保 (電気通信大学)、久野靖(筑波大学)、大木敦雄 (筑波大学)
主要業績を参照のこと。

◆将来の研究計画・研究の展望

昨年一応の完成をみた研究として、手書き文の作成と手書きのメール送信プログラム、手書きメールの受信再生プログラムがある。

これをさらに深めたものを査読論文として投稿する予定である。

また、長年投稿を続けた「Iconを投げる」研究を共同研究者と共にさらに深く掘り下げたい。

また学生が修士課程へ進学した後、学部の研究を纏めて単名で研究会で報告を行う予定である。この学生の持っている音楽との連携のアイデアを実現させたいと思う。さらに学生と共同でドア全体をタッチパネルに見立てた上での認証を纏めたい。

◆研究の実用化 (今後実用化したいテーマ)

USB デバイスとしてソナーを作り、ドアや廊下などに設置して、これを利用した認証の実験を行いたい。